

帽子とどろろ

ニフ昔 存くてもすむ

いくつものおやうとのあひ服もある

外を歩いていゝ人を見ると

帽子の多い人 変せいのいふ

すく置いたく存りの本 帽子とどろろだ

自分でもお取柄かわかろすい

バツラのあは 何年か昔 十五歳に 床に

あが出し知事して

帽子の方もすてた

これでは何もあつたはずだ

手元に羽先のがらりの帽子と 毛をで 穿んだ

がレ一に花のついでたものもある

両方共 脱わていゝ時を候つていふ

帽子はあはたかい

フワく とした手紙とあはためる ^{もの}と 帽子は

お舞々をふせぐ 父いぬんだ

こゝれで ぶん分のこゝれ して 花玉のついで

すゝ ぼりかぶるにとが 去来するのを 隠して

しきつた やほりがれいだ

昔がうろたふてゐた帽子が

帽子は主物だから、ふしやれと思つて

それ付ひの経い

日本人は象の甲でボーンを使用する

習慣は多量

ひの肉かぶる習慣に

へだたふく、なつて来ている

帽子でバラス、スエと

帽子は、昨今のふしやれのり

2020
1/29